

## **(2) 公認スポーツ指導者の活動状況に関する調査**

---

## 主な調査結果

### **ボランティアとしてスポーツ指導をしている指導者が7割**

過去1年間の職業として、又はボランティアとしてのスポーツ指導状況を見ると、「現在職業としてのみ行っている」11.3%、「職業として行っており、かつボランティアでも行っている」18.2%、「ボランティアとしてのみ行っている」52.8%、「スポーツ指導を行っていない」17.6%であった。

資格別に見ると、日体協公認指導者、日障協公認指導者いずれもボランティアとしてのみ行っている人が最も多く、それぞれ 52.7%、53.2%であった。【図表 2-8】

### **ボランティアのスポーツ指導で謝金や交通費等を受け取っている指導者は6割強**

過去1年間のボランティアとしてのスポーツ指導において、謝金や交通費・弁当などを受け取ったことがあるかについては、「ある」が 64.3%、「ない」が 35.7%であった。資格別に見ると、日体協では「ある」が 60.7%、日障協では「ある」が 81.2%であった。

1 回当たりの指導で受け取った謝金は、「1,000 円以上 5,000 円未満」(64.7%)が最も多く、次いで「5,000 円以上 10,000 円未満」(21.3%)であった。なお平均値は 4,815 円であった。資格別に見た金額の平均値は、日体協公認指導者が 5,369 円、日障協公認指導者が 2,796 円であった。【図表 2-9、図表 2-11】

### **4割強の指導者が「謝金は必要ないが、弁当や交通費などの実費分は受け取りたい」**

過去1年間にボランティアとしてスポーツ指導を行った者に対し、指導に対する謝金等の受取についての考えを尋ねたところ、「謝金は必要ないが、弁当や交通費などの実費分は受け取りたい」(44.2%)が最も多く、次いで「弁当や交通費などの実費分も含めて謝金を受け取りたい」(26.2%)であった。

資格別に見ると、日体協、日障協共に「謝金は必要ないが、弁当や交通費などの実費分は受け取りたい」(それぞれ 41.1%、58.3%)が最も多く、次いで「弁当や交通費などの実費分も含めて謝金を受け取りたい」(それぞれ 27.2%、21.8%)であった。【図表 2-14】

### **ボランティアでスポーツ指導を行う理由は「スポーツの楽しさを教えたい」が7割**

ボランティアとしてのスポーツ指導活動を行う理由については、「スポーツの楽しさを教えたい」(71.4%)が最も多く、次いで「自分の知識や経験を生かしたい」「団体・チームの心の支えになりたい」(68.3%)、「指導活動を通して地域社会に貢献したい」(60.9%)であった。【図表 2-24】

### **9割の指導者がボランティアとしてのスポーツ指導を「今後も続けたい」と回答**

ボランティアとしてのスポーツ指導活動を今後も続けたいと思うかについては、「非常にそう思う」(58.7%)が最も多く、次いで「ややそう思う」(33.3%)であった。「非常にそう思う」「ややそう思う」と合計すると、92.0%が『今後も続けたい』と回答した。

資格別に見ると、日体協公認指導者、日障協公認指導者共に「非常にそう思う」(それぞれ 57.7%、63.7%)が最も多く、次いで「ややそう思う」(それぞれ 34.3%、28.8%)であった。【図表 2-27】

# 1. 調査概要

---

## 1. 1 調査目的

本調査は、指導者資格を有するスポーツ指導者の活動状況を明らかにすることによって、スポーツにおけるボランティア活動の担い手(個人や組織・団体)の要件を整理し、活動の活性化のための今後の方向性と「支えるスポーツ」の推進を図るための基礎資料とすることを目的とした。

## 1. 2 調査方法及び回収結果

### (1) 調査方法

無記名式の質問紙調査を郵送法で実施した。

### (2) 調査内容

- ・スポーツ指導活動の実施状況
- ・ボランティアでスポーツ指導をする際の組織・場所、対象者、謝金等の受給状況、問題点等
- ・ボランティアでのスポーツ指導に関する今後の実施意向
- ・性別、年齢、職業等

### (3) 調査対象

日本体育協会(以下、日体協)及び日本障がい者スポーツ協会(以下、日障協)の公認スポーツ指導者 3,446 人を対象とした。各指導者の内訳は以下のとおりである。

- 1) 日体協 公認スポーツ指導者(指導員・ジュニアスポーツ指導員) 2,999 人
- 2) 日障協 公認障がい者スポーツ指導員(中級) 447 人

### (4) 回収数(回収率)

1,769 票(51.3%)

各指導者の内訳は以下のとおりである。

- 1) 日体協 公認スポーツ指導者(指導員・ジュニアスポーツ指導員) 1,476 票(49.2%)
- 2) 日障協 公認障がい者スポーツ指導員(中級) 293 票(65.5%)

### (5) 調査期間

2014 年 7 月 31 日～2014 年 9 月 24 日

### (6) 用語の定義

本報告書では、ボランティア活動を「報酬を目的とせず、自分の労力・技術・時間を提供して地域社会や個人・団体のスポーツ推進のために行う活動。ただし、活動に必要な交通費等の実費程度の金額の受取は報酬に含まない」と定義した。「ボランティアとしてのスポーツ指導活動」は、無償又は実費程度の謝金等を受けて実施したスポーツ指導活動を意味する。

## 2. 調査結果

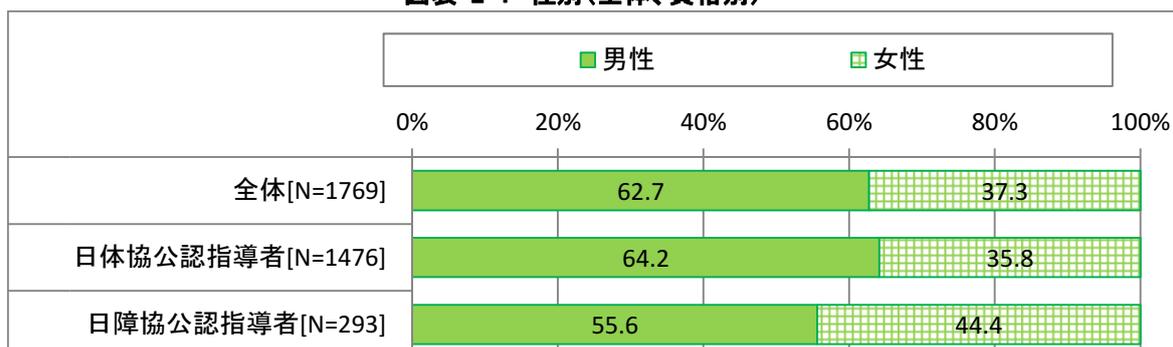
### 2.1 回答者属性

#### (1) 性別

回答者の性別の割合は、「男性」が62.7%、「女性」が37.3%であった(図表 2-1)。

資格別に見ると、日体協では「男性」が64.2%、「女性」が35.8%、日障協では「男性」が55.6%、「女性」が44.4%であった。

図表 2-1 性別(全体、資格別)

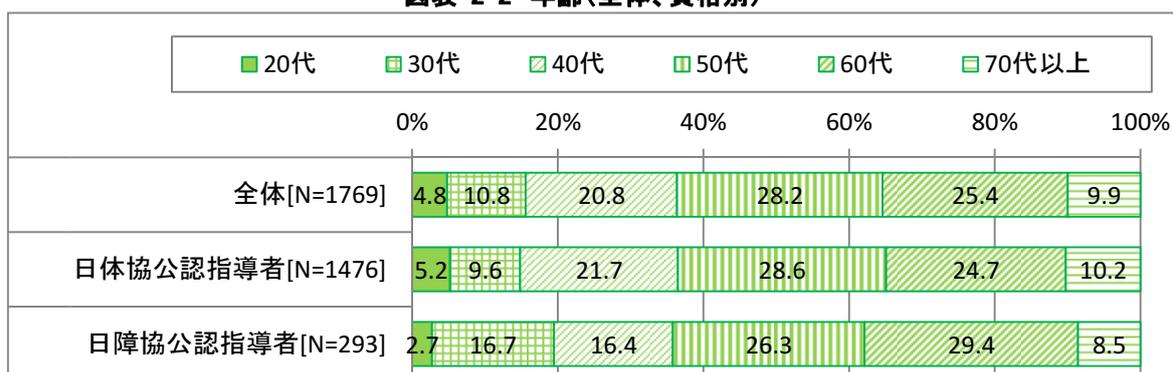


#### (2) 年齢

回答者の年齢は、「50代」(28.2%)最も多く、次いで「60代」(25.4%)、「40代」(20.8%)であった(図表 2-2)。

資格別に見ると、日体協では「50代」(28.6%)が最も多く、次いで「60代」(24.7%)、日障協では「60代」(29.4%)が最も多く、次いで「50代」(26.3%)であった。

図表 2-2 年齢(全体、資格別)

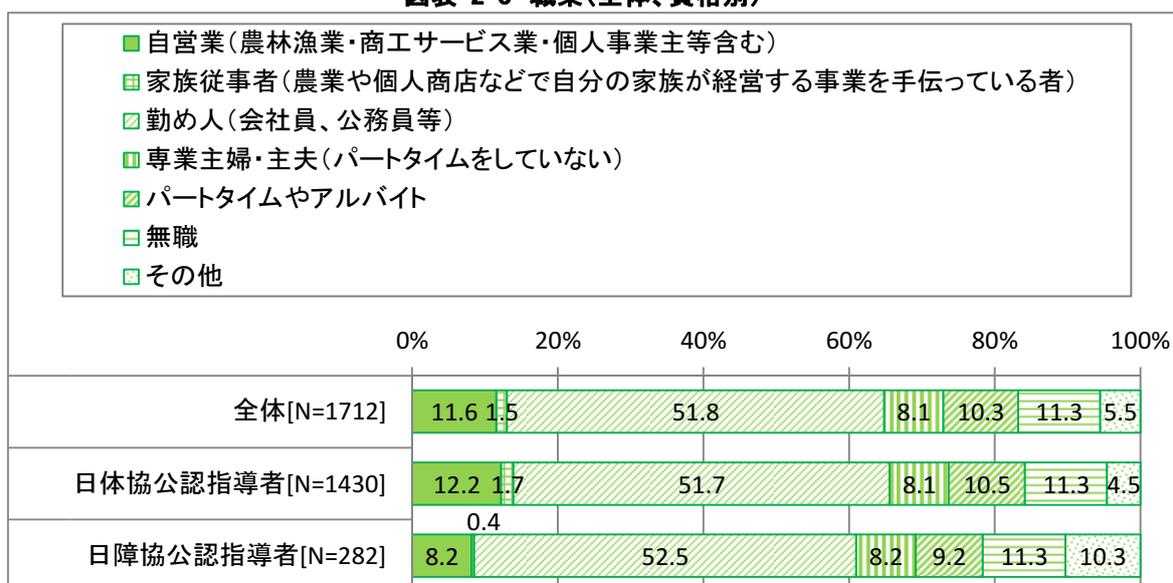


### (3) 職業

回答者の職業は、「勤め人(会社員、公務員等)」(51.8%)が最も多く、次いで「自営業(農林漁業・商工サービス業・個人事業主等含む)」(11.6%)、「無職」(11.3%)であった(図表 2-3)。

資格別に見ると、日体協では「勤め人(会社員、公務員等)」(51.7%)が最も多く、次いで「自営業(農林漁業・商工サービス業・個人事業主等含む)」(12.2%)、日障協では「勤め人(会社員、公務員等)」(52.5%)が最も多く、次いで「無職」(11.3%)であった。

図表 2-3 職業(全体、資格別)

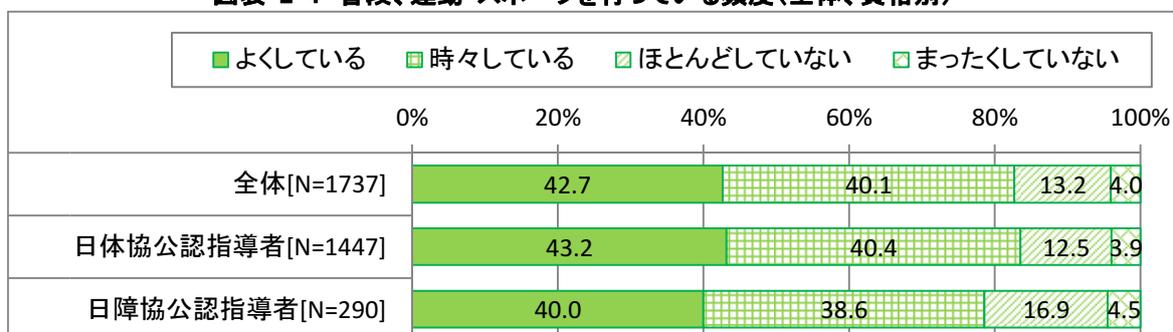


### (4) 普段、運動・スポーツを行っている頻度(スポーツ指導活動は除く)

回答者が普段、運動・スポーツを行っている頻度は、「よくしている」(42.7%)が最も多く、次いで「時々している」(40.1%)であった(図表 2-4)。

資格別に見ると、日体協、日障協共に「よくしている」(それぞれ 43.2%、40.0%)が最も多く、次いで「時々している」(それぞれ 40.4%、38.6%)であった。

図表 2-4 普段、運動・スポーツを行っている頻度(全体、資格別)

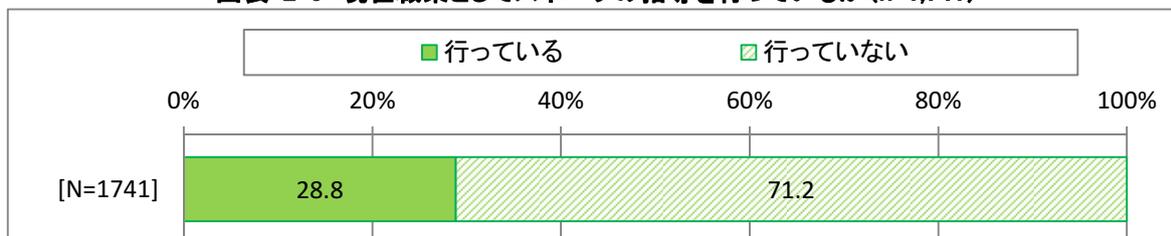


## 2.2 スポーツ指導活動について

### (1) 現在職業としてスポーツの指導を行っているか

現在、職業としてスポーツの指導を行っているかについては、「行っている」28.8%、「行っていない」71.2%であった(図表 2-5)。

図表 2-5 現在職業としてスポーツの指導を行っているか(n=1,741)



注) 学校運動部活動の顧問を含む

### (2) 過去1年間に1回以上スポーツの指導を行ったか

現在、職業としてスポーツの指導を行っていないと回答した者に対し、過去1年間に1回以上スポーツの指導を行ったかについて尋ねたところ、「行った」75.0%、「行っていない」25.0%であった(図表 2-6)。

図表 2-6 過去1年間に1回以上スポーツの指導を行ったか(n=1,185)



### (3) 職業としてのスポーツ指導のほかに、過去1年間に無償又は実費程度の謝金等を受けてスポーツ指導を行ったか

職業としてのスポーツ指導のほかに、過去1年間に無償又は実費程度の謝金等を受けてスポーツ指導(以下、ボランティアとしてのスポーツ指導)を行ったかを尋ねたところ、「行った」61.6%、「行っていない」38.4%であった(図表 2-7)。

図表 2-7 過去1年間に無償又は実費程度の謝金等を受けてスポーツ指導を行ったか(n=498)

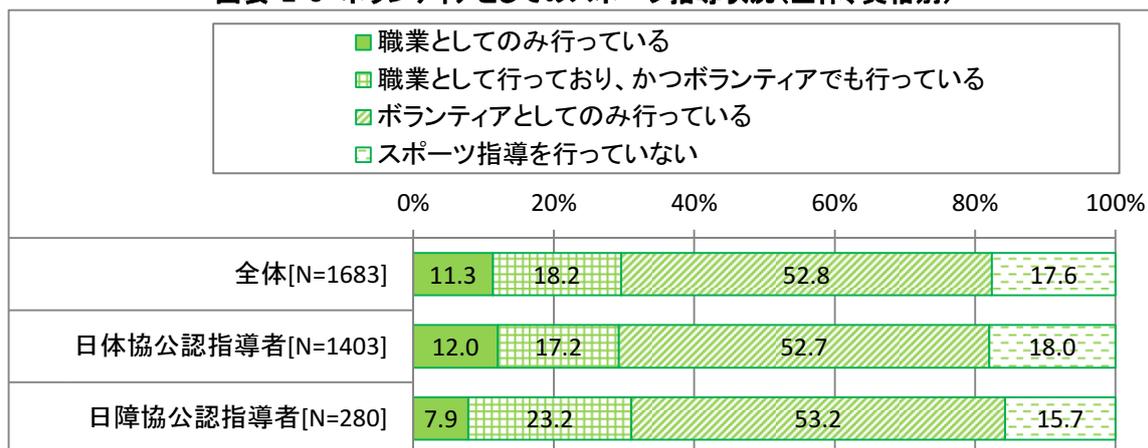


#### (4) 過去1年間におけるボランティアとしてのスポーツ指導状況

過去1年間におけるスポーツ指導活動状況(図表2-5～図表2-7参照)を基に、回答者の職業として又はボランティアとしてのスポーツ指導状況を図表2-8に示した。「現在職業としてのみ行っている」11.3%、「職業として行っており、かつボランティアでも行っている」18.2%、「ボランティアとしてのみ行っている」52.8%、「スポーツ指導を行っていない」17.6%であった。

資格別に見ると、日体協公認指導者(以下、日体協)、日障協公認指導者(以下、日障協)いずれも「ボランティアとしてのみ行っている」が最も多く、それぞれ52.7%、53.2%であった。

図表 2-8 ボランティアとしてのスポーツ指導状況(全体、資格別)



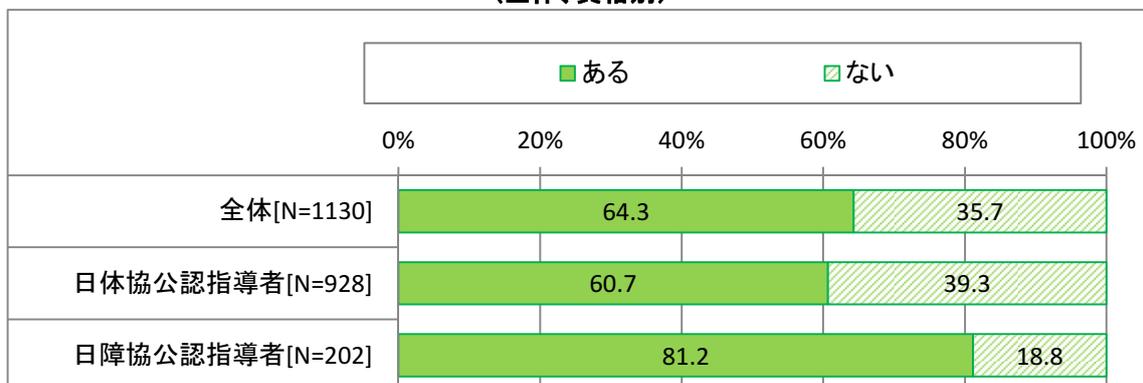
### 2. 3 過去1年間に行ったボランティアとしてのスポーツ指導活動について

#### (1) ボランティアとしてのスポーツ指導における謝金や交通費・弁当などの受取状況

過去1年間におけるスポーツ指導を「職業して行っており、かつボランティアでも行っている」、又は「ボランティアとしてのみ行っている」と回答した者に対し、ボランティアとしてスポーツ指導を行った際に謝金や交通費・弁当などを受け取ったことがあるかについて尋ねた。「ある」64.3%、「ない」35.7%であり、謝金などを受け取っている指導者は6割以上を占めた(図表2-9)。

資格別に見ると、「ある」と回答した者の割合は、日体協60.7%、日障協81.2%であり、日障協の方が高い割合を示した。

図表 2-9 ボランティアとしてのスポーツ指導で謝金や交通費・弁当などを受け取ったことがあるか(全体、資格別)

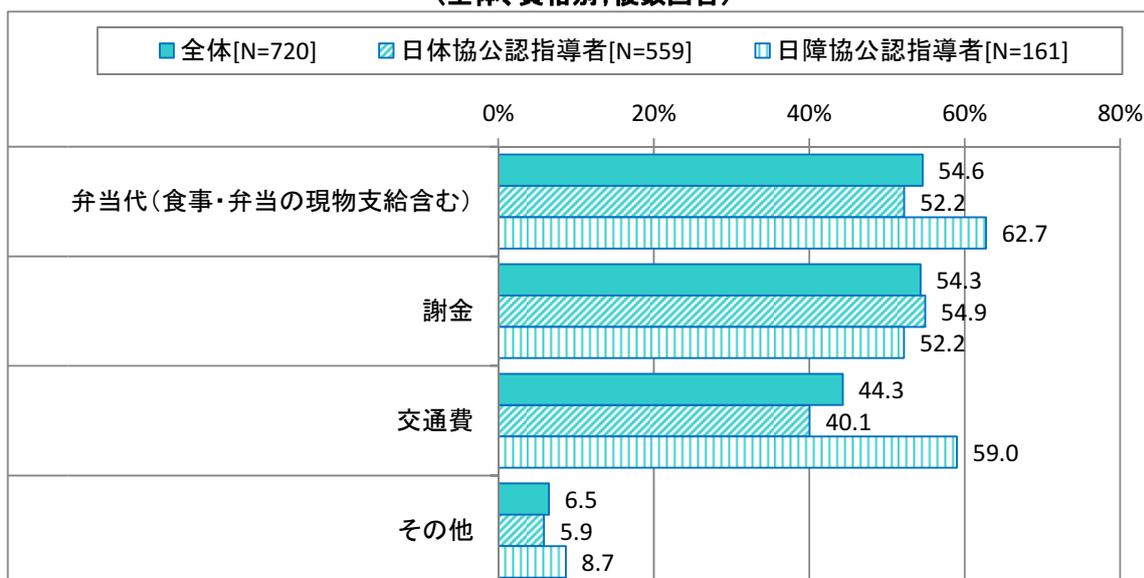


## (2) ボランティアとしてのスポーツ指導で具体的に受け取ったもの

過去1年間に行ったボランティアとしてのスポーツ指導において謝金や交通費・弁当などを受け取ったことがあると回答した者に対し、具体的に受け取ったものを尋ねたところ、「弁当代(食事・弁当の現物支給含む)」(54.6%)が最も多く、次いで「謝金」(54.3%)であった(図表2-10)。

資格別に見ると、日体協では「謝金」(54.9%)が最も多く、次いで「弁当代(食事・弁当の現物支給含む)」(52.2%)、日障協では「弁当代(食事・弁当の現物支給含む)」(62.7%)が最も多く、次いで「交通費」(59.0%)であった。

図表 2-10 ボランティアとしてのスポーツ指導で具体的に受け取ったもの  
(全体、資格別;複数回答)



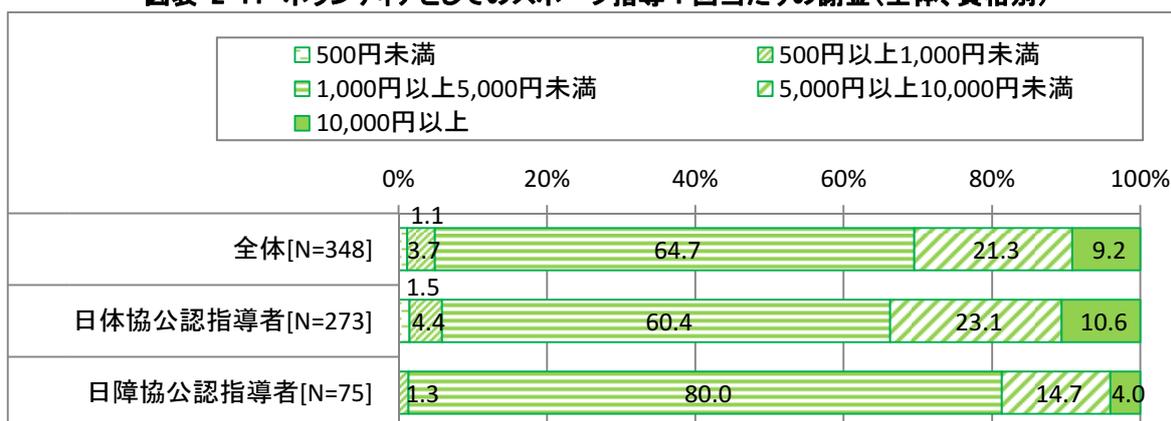
### (3) ボランティアとしてのスポーツ指導で受け取った1回当たりの謝金や交通費・弁当代の金額

#### ① 謝金

過去1年間に行ったボランティアとしてのスポーツ指導において、謝金を受け取ったと回答した者に対し、1回当たりの受け取った金額を尋ねたところ、「1,000円以上 5,000円未満」(64.7%)が最も多く、次いで「5,000円以上 10,000円未満」(21.3%)であった。なお平均値は4,815円であった(図表2-11)。

資格別に見ると、日体協、日障協共に「1,000円以上 5,000円未満」(それぞれ60.4%、80.0%)が最も多く、次いで「5,000円以上 10,000円未満」(それぞれ23.1%、14.7%)であった。なお平均値は、日体協が5,369円、日障協が2,796円であった。

図表 2-11 ボランティアとしてのスポーツ指導1回当たりの謝金(全体、資格別)



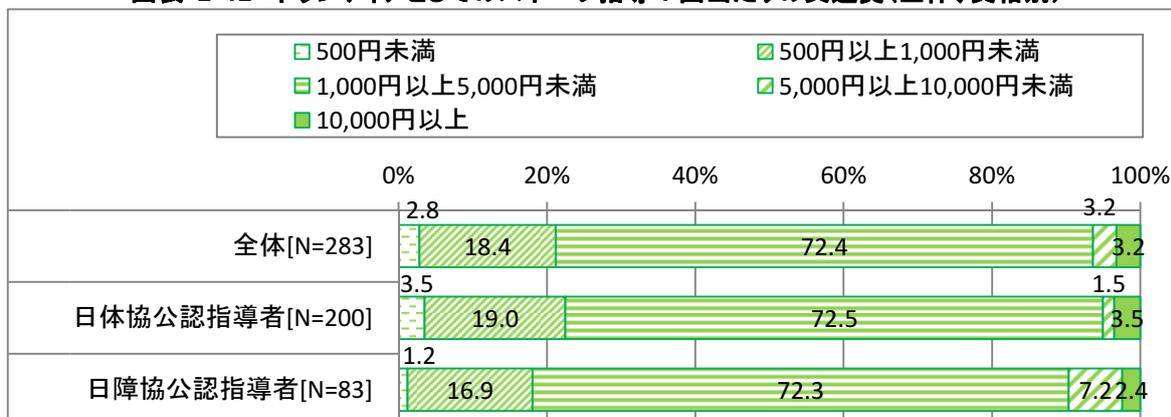
注) 複数回受け取っている場合は、平均的な金額を回答

#### ② 交通費

過去1年間に行ったボランティアとしてのスポーツ指導において、交通費を受け取ったと回答した者に対し、1回当たりの受け取った金額を尋ねたところ、「1,000円以上 5,000円未満」(72.4%)が最も多く、次いで「500円以上 1,000円未満」(18.4%)であった。なお平均値は2,136円であった(図表2-12)。

資格別に見ると、日体協、日障協共に「1,000円以上 5,000円未満」(それぞれ72.5%、72.3%)が最も多く、次いで「500円以上 1,000円未満」(それぞれ19.0%、16.9%)であった。なお平均値は、日体協が2,032円、日障協が2,384円であった。

図表 2-12 ボランティアとしてのスポーツ指導1回当たりの交通費(全体、資格別)



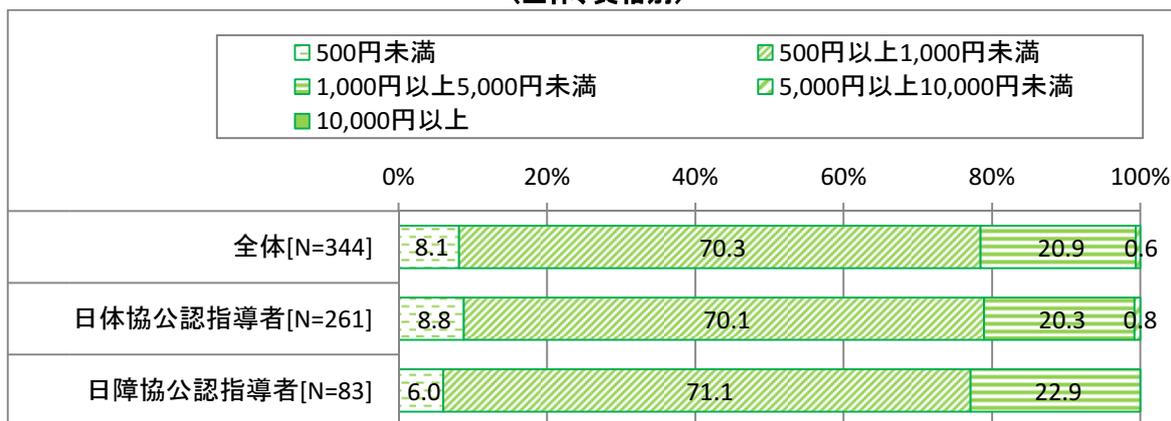
注) 複数回受け取っている場合は、平均的な金額を回答

### ③ 弁当代（食事・弁当の現物支給含む）

過去1年間に行ったボランティアとしてのスポーツ指導において、弁当代（食事・弁当の現物支給含む）を受け取ったと回答した者に対し、1回当たりの受け取った金額を尋ねたところ、「500 円以上 1,000 円未満」（70.3%）が最も多く、次いで「1,000 円以上 5,000 円未満」（20.9%）であった。なお平均値は 695 円であった（図表 2-13）。

資格別に見ると、日体協、日障協共に「500 円以上 1,000 円未満」（それぞれ 70.1%、71.1%）が最も多く、次いで「1,000 円以上 5,000 円未満」（それぞれ 20.3%、22.9%）であった。なお平均値は、日体協が 702 円、日障協が 674 円であった。

**図表 2-13 ボランティアとしてのスポーツ指導 1 回当たりの弁当代  
（全体、資格別）**



注 1) 食事・弁当の現物支給含む

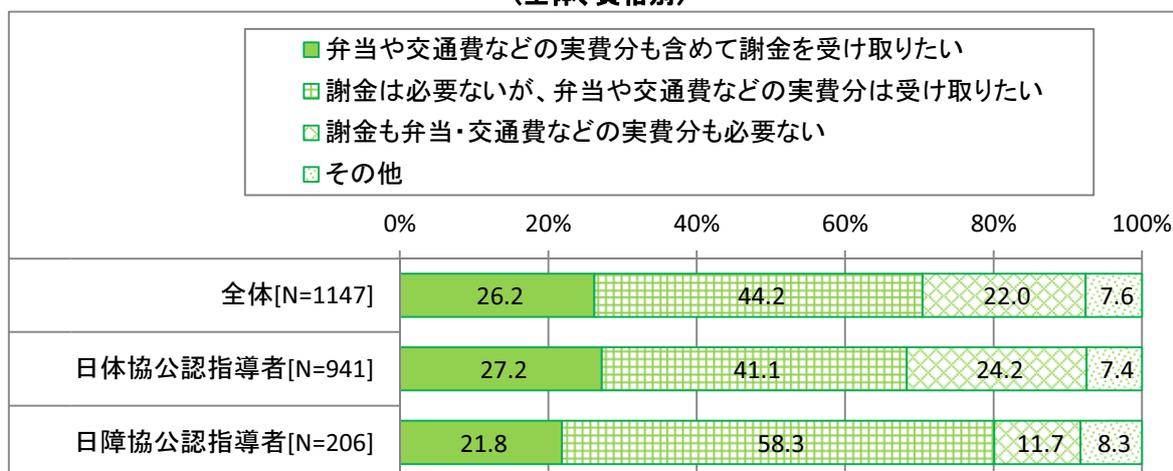
注 2) 複数回受け取っている場合は、平均的な金額を回答

#### (4) ボランティアとしてのスポーツ指導に対する謝金等の受取についての考え

過去1年間にボランティアとしてスポーツ指導を行った者に対し、指導に対する謝金等の受取についての考えを尋ねたところ、「謝金は必要ないが、弁当や交通費などの実費分は受け取りたい」(44.2%)が最も多く、次いで「弁当や交通費などの実費分も含めて謝金を受け取りたい」(26.2%)であった(図表 2-14)。その他として、「新幹線代など高額となる場合は、一部でもよいので受け取りたい」「事故等の保障となる何かがあるとよい」などの回答が見られた。

資格別に見ると、日体協、日障協共に「謝金は必要ないが、弁当や交通費などの実費分は受け取りたい」(それぞれ 41.1%、58.3%)が最も多く、次いで「弁当や交通費などの実費分も含めて謝金を受け取りたい」(それぞれ 27.2%、21.8%)であった。

図表 2-14 ボランティアとしてのスポーツ指導に対する謝金等の受取についての考え  
(全体、資格別)



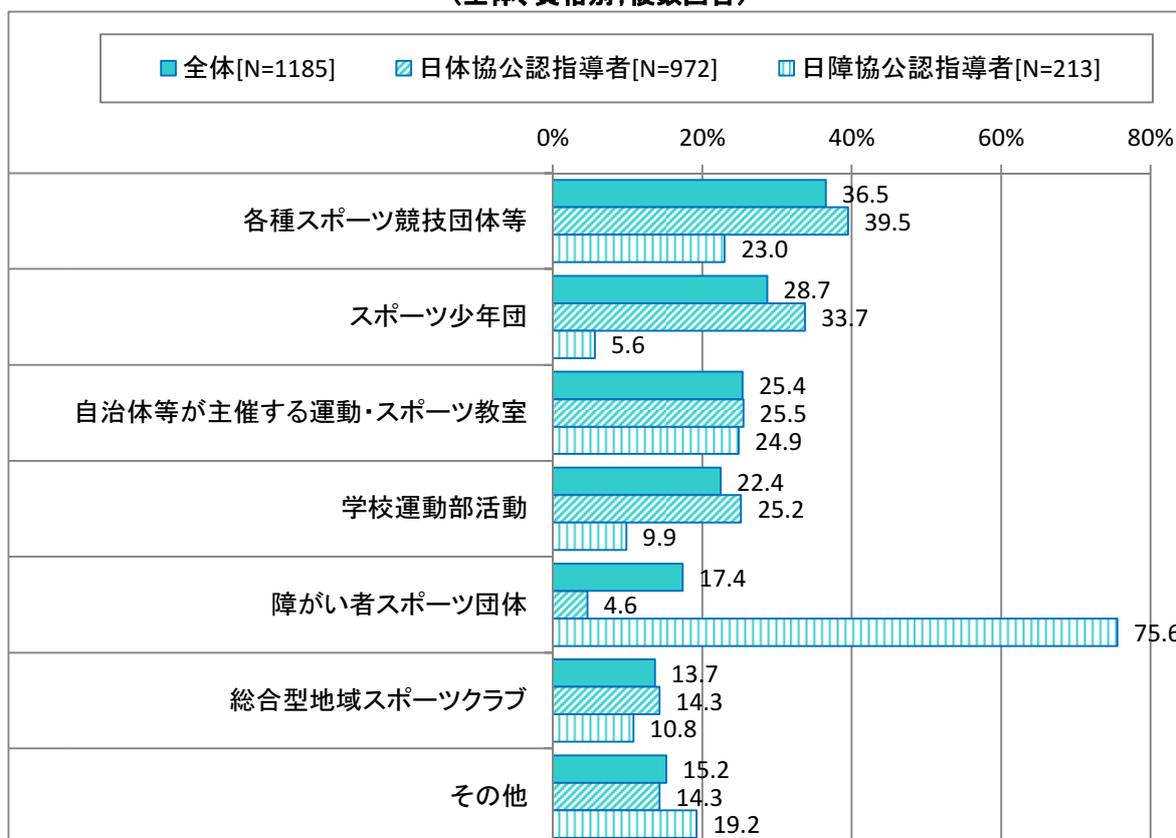
### (5) ボランティアとしてのスポーツ指導に携わる主な組織や場所

過去1年間にボランティアとしてスポーツ指導を行った者に対し、指導に携わる主な組織や場所について尋ねたところ、「各種スポーツ競技団体等」(36.5%)が最も多く、次いで「スポーツ少年団」(28.7%)、「自治体等が主催する運動・スポーツ教室」(25.4%)であった(図表 2-15)。

「その他」としては、「サークル」「学校が主催するスポーツ活動」「障害者の保護者で運営する教室」「老人福祉施設」などの回答が見られた。

資格別に見ると、日体協では「各種スポーツ競技団体等」(39.5%)が最も多く、次いで「スポーツ少年団」(33.7%)、日障協では「障がい者スポーツ団体」(75.6%)が最も多く、次いで「自治体等が主催する運動・スポーツ教室」(24.9%)であった。

**図表 2-15 ボランティアとしてのスポーツ指導に携わる主な組織や場所**  
(全体、資格別;複数回答)

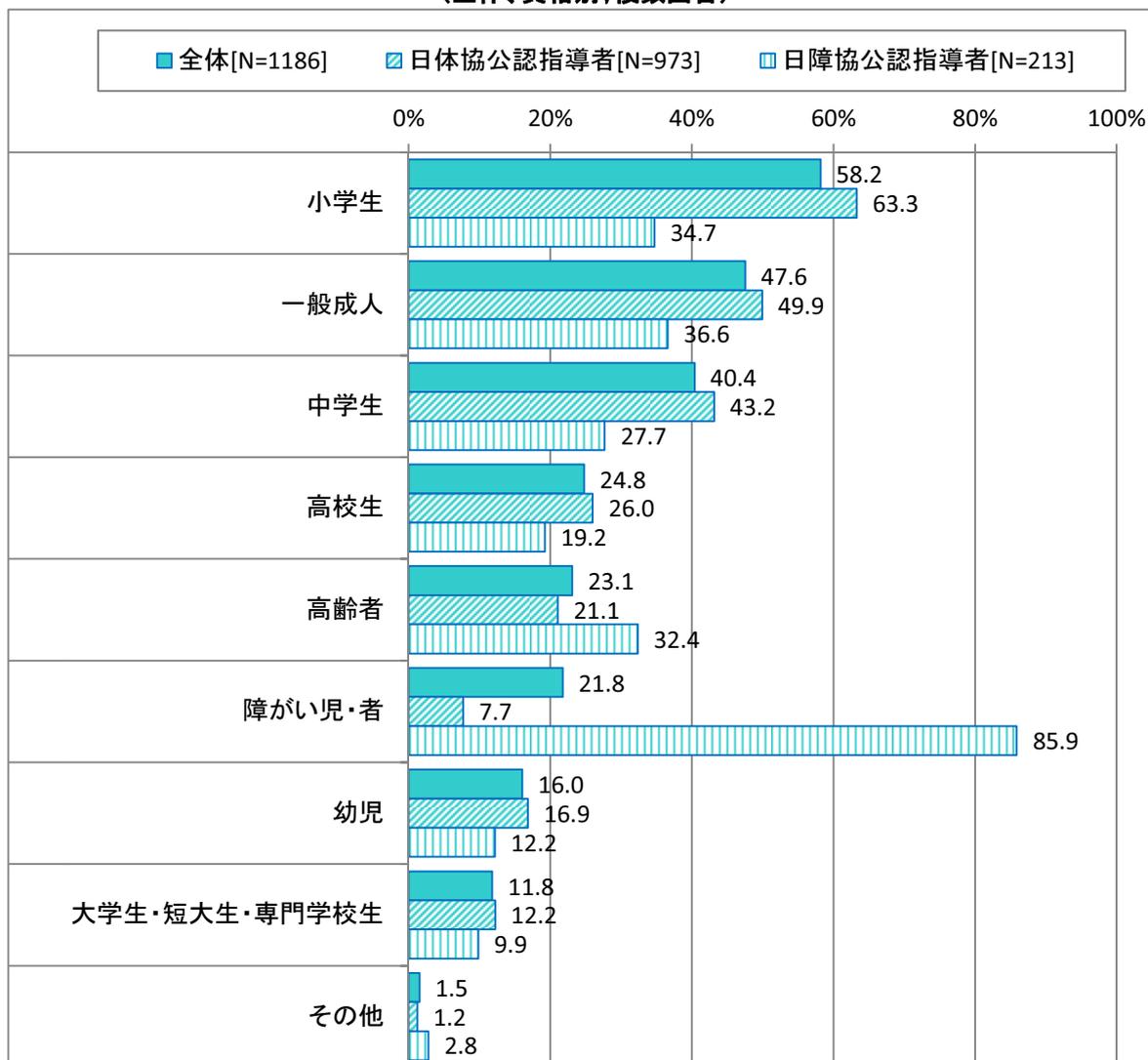


## (6) ボランティアとしてのスポーツ指導の対象

過去1年間にボランティアとしてスポーツ指導を行った者に対し、指導している対象を尋ねたところ、「小学生」(58.2%)が最も多く、次いで「一般成人」(47.6%)、「中学生」(40.4%)であった(図表 2-16)。

資格別に見ると、日体協では「小学生」(63.3%)が最も多く、次いで「一般成人」(49.9%)、日障協では「障がい児・者」(85.9%)が最も多く、次いで「一般成人」(36.6%)であった。

図表 2-16 ボランティアとしてのスポーツ指導の対象  
(全体、資格別;複数回答)



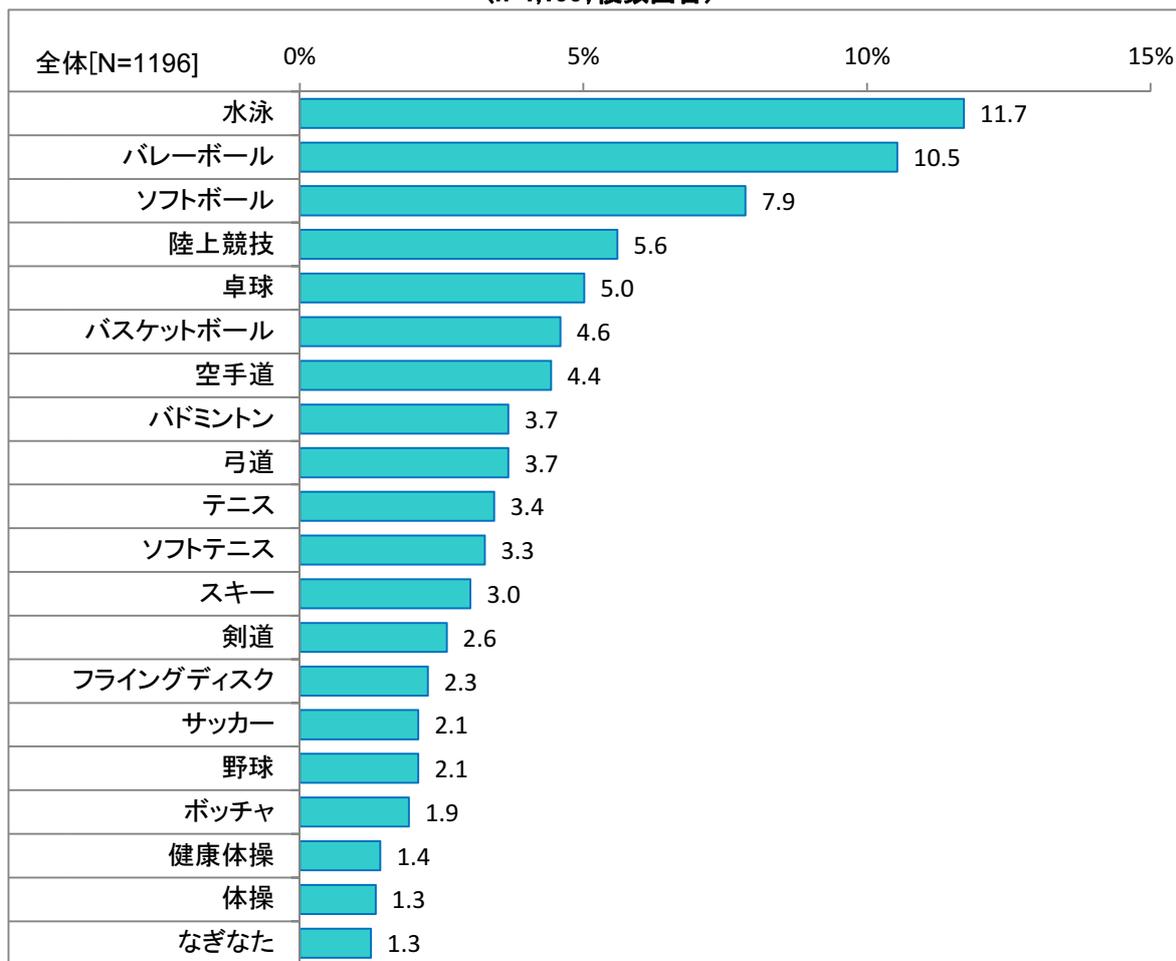
(7) ボランティアとしてのスポーツ指導の種目や指導年数、年間指導日数、1回当たりの指導時間

① 主な種目（上位 20 種目）

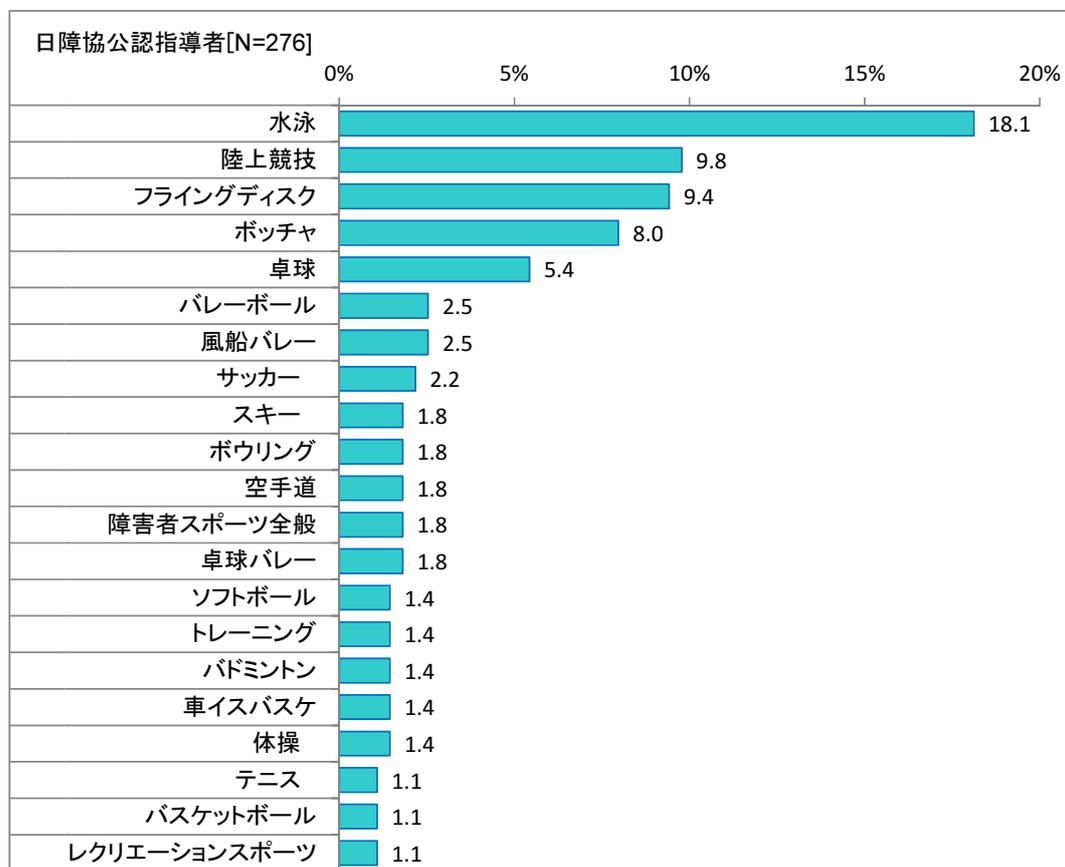
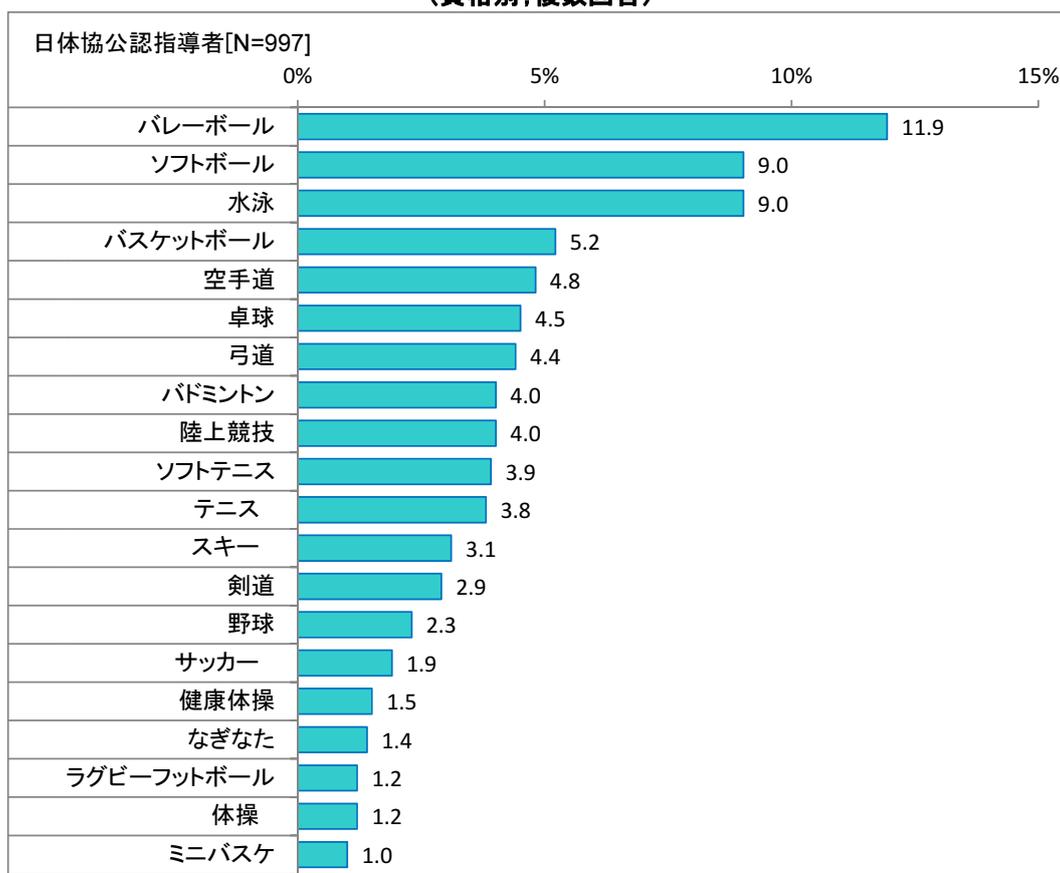
過去1年間に行ったボランティアとしてのスポーツ指導の主な種目（上位 20 種目）は、「水泳」(11.7%)が最も多く、次いで「バレーボール」(10.5%)、「ソフトボール」(7.9%)であった(図表 2-17)。

資格別に見ると、日体協では「バレーボール」(11.9%)が最も多く、次いで「ソフトボール」「水泳」(共に 9.0%)、日障協では「水泳」(18.1%)が最も多く、次いで「陸上競技」(9.8%)であった(図表 2-18)。

図表 2-17 ボランティアとしてのスポーツ指導の主な種目(上位 20 種目)  
(n=1,196;複数回答)



図表 2-18 ボランティアとしてのスポーツ指導の主な種目(上位 20 種目)  
(資格別;複数回答)

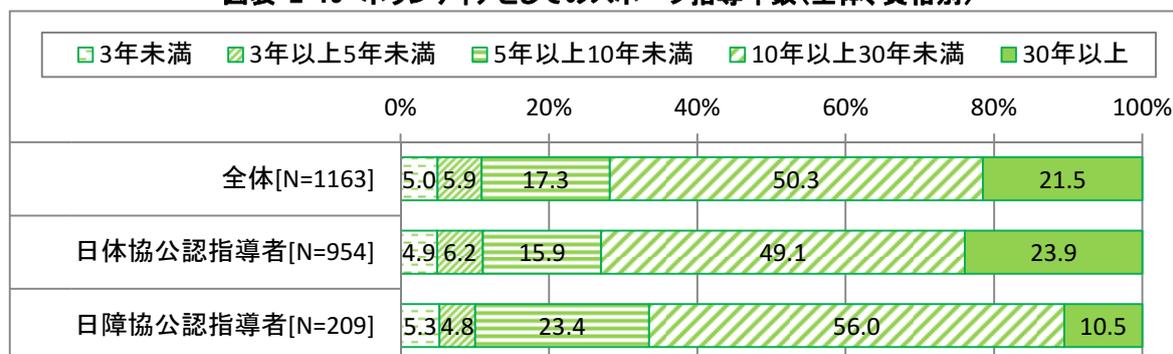


## ② 指導年数

ボランティアとしてのスポーツ指導年数は、「10年以上30年未満」(50.3%)が最も多く、次いで「30年以上」(21.5%)、「5年以上10年未満」(17.3%)であった。なお平均値は17.2年であった(図表2-19)。

資格別に見ると、日体協では「10年以上30年未満」(49.1%)が最も多く、次いで「30年以上」(23.9%)、日障協では「10年以上30年未満」(56.0%)が最も多く、次いで「5年以上10年未満」(23.4%)であった。

図表 2-19 ボランティアとしてのスポーツ指導年数(全体、資格別)

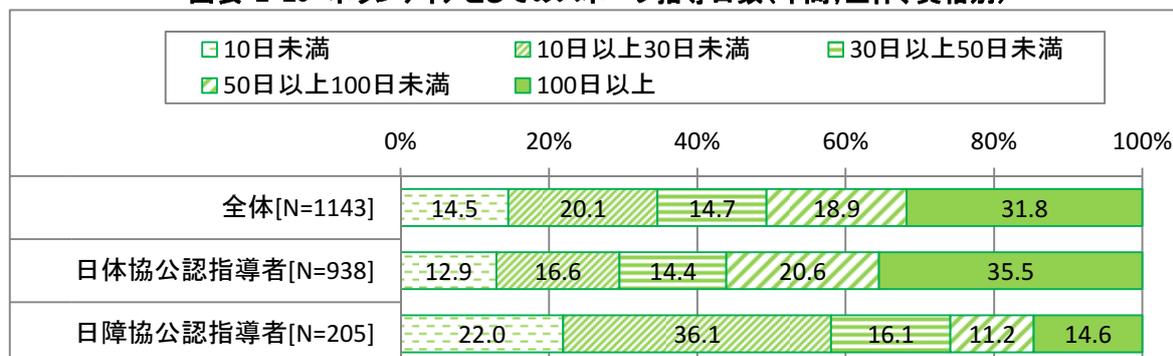


## ③ 年間の指導日数

年間のボランティアとしてのスポーツ指導日数を尋ねたところ、「100日以上」(31.8%)が最も多く、次いで「10日以上30日未満」(20.1%)であった。なお平均値は77.1日であった(図表2-20)。

資格別に見ると、日体協では「100日以上」(35.5%)が最も多く、次いで「50日以上100日未満」(20.6%)であり、日障協では「10日以上30日未満」(36.1%)が最も多く、次いで「10日未満」(22.0%)であった。

図表 2-20 ボランティアとしてのスポーツ指導日数(年間;全体、資格別)

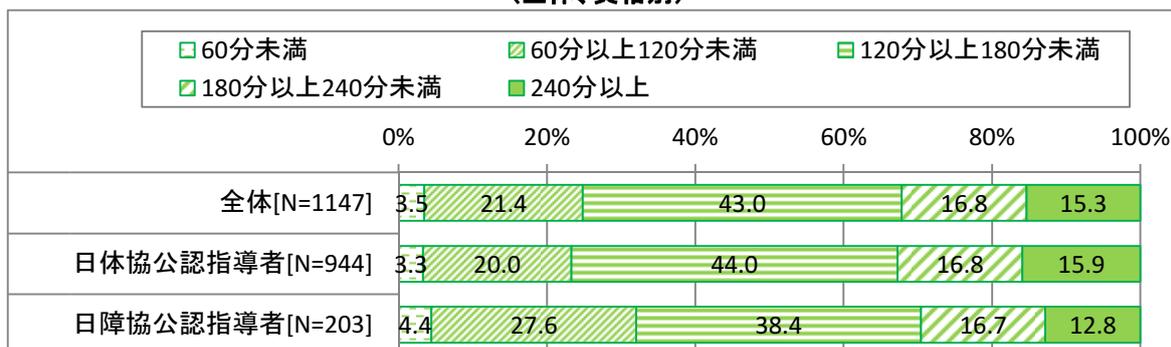


#### ④ 1 回当たりの平均指導時間

ボランティアとしてのスポーツ指導における 1 回当たりの平均指導時間は、「120 分以上 180 分未満」(43.0%) が最も多く、次いで「60 分以上 120 分未満」(21.4%) であった。なお平均値は 150.5 分であった(図表 2-21)。

資格別に見ると、日体協、日障協共に「120 分以上 180 分未満」(それぞれ 44.0%、38.4%) が最も多く、次いで「60 分以上 120 分未満」(それぞれ 20.0%、27.6%) であった。

図表 2-21 ボランティアとしてのスポーツ指導 1 回当たりの平均指導時間  
(全体、資格別)



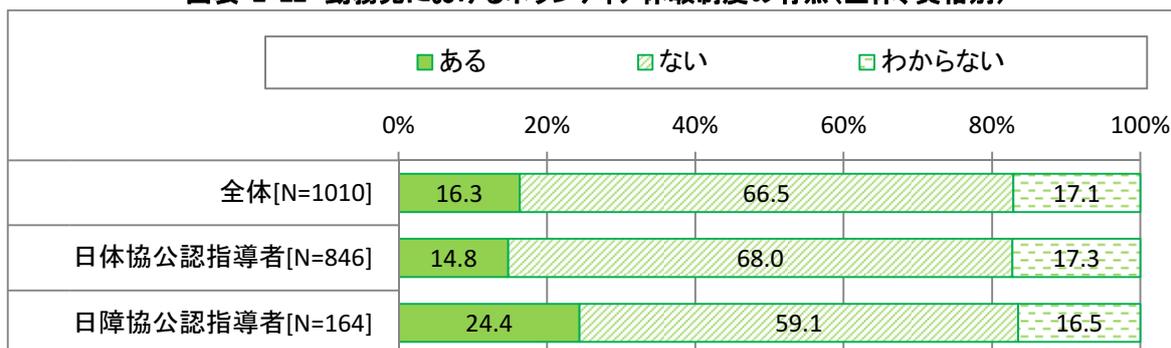
#### (8) ボランティア休暇制度の有無

##### ① ボランティア休暇制度の有無

過去1年間にボランティアとしてスポーツ指導を行った者に対し、勤務先におけるボランティア休暇制度の有無について尋ねたところ、「ある」16.3%、「ない」66.5%であった(図表 2-22)。

資格別に見ると、日体協では「ある」14.8%、「ない」68.0%であり、日障協では「ある」24.4%、「ない」59.1%であった。

図表 2-22 勤務先におけるボランティア休暇制度の有無(全体、資格別)



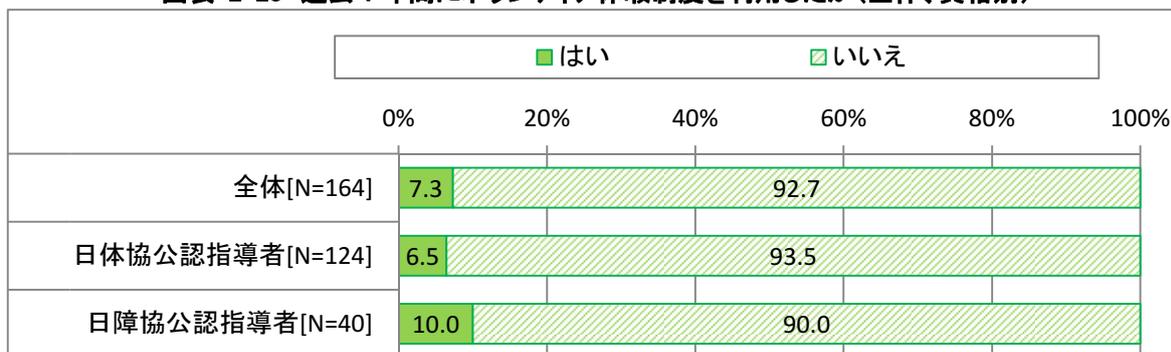
注) ボランティア休暇: 社会・地域貢献活動を支援する休暇

② 過去1年間にボランティア休暇制度を利用したか

勤務先にボランティア休暇制度があると回答した者に対し、スポーツ指導等の活動のために過去1年間にボランティア休暇制度を利用したかについて尋ねたところ、「はい」7.3%、「いいえ」92.7%であった(図表2-23)。

資格別に見ると、日体協では「はい」6.5%、「いいえ」93.5%であり、日障協では「はい」10.0%、「いいえ」90.0%であった。

図表 2-23 過去1年間にボランティア休暇制度を利用したか(全体、資格別)

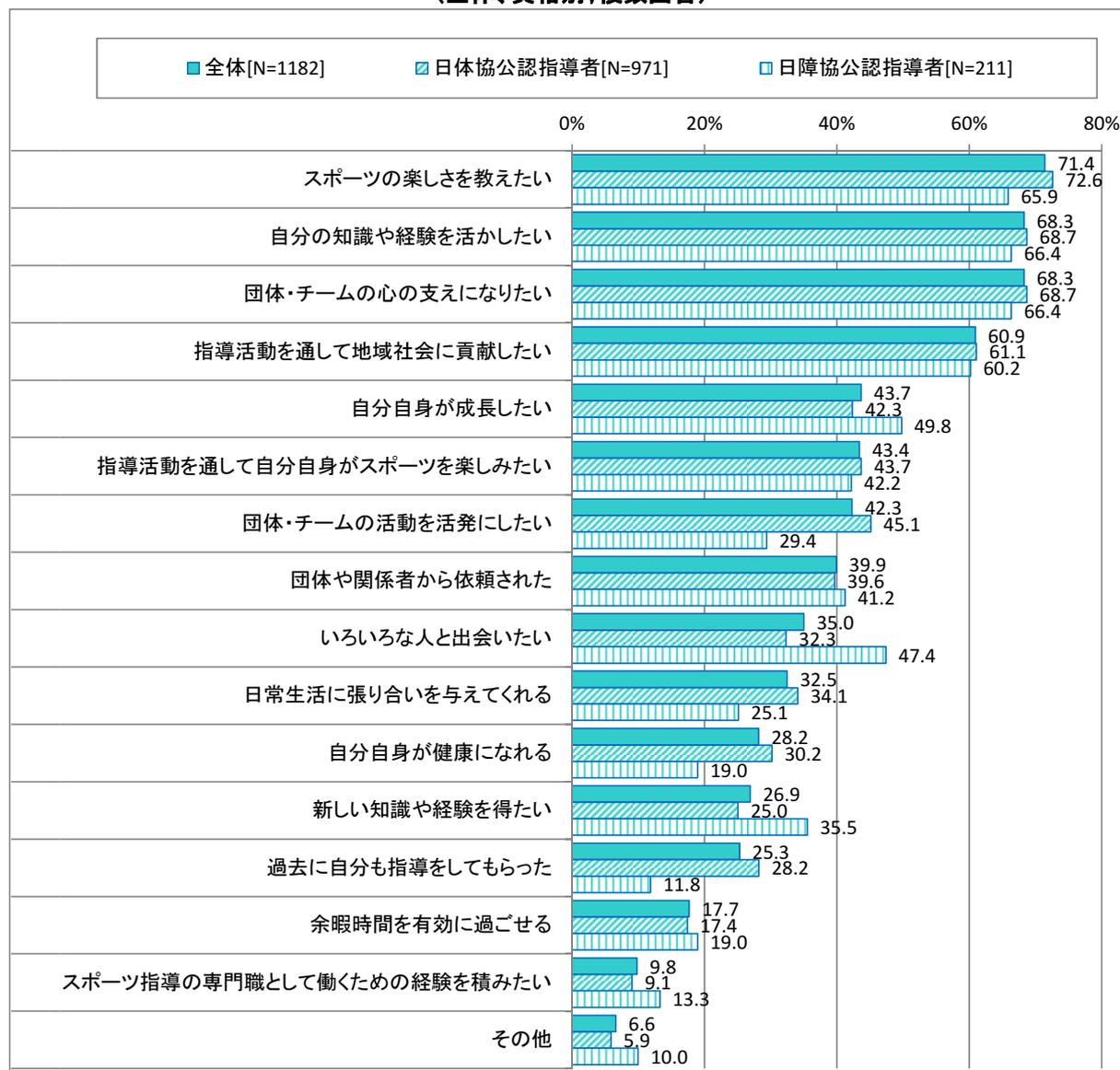


### (9) ボランティアでスポーツ指導を行う理由

ボランティアでスポーツ指導を行う理由については、「スポーツの楽しさを教えたい」(71.4%)が最も多く、次いで「自分の知識や経験を活かしたい」「団体・チームの心の支えになりたい」(68.3%)、「指導活動を通して地域社会に貢献したい」(60.9%)であった(図表 2-24)。

資格別に見ると、日体協では「スポーツの楽しさを教えたい」(72.6%)が最も多く、次いで「自分の知識や経験を活かしたい」「団体・チームの心の支えになりたい」(共に 68.7%)であった。日障協では「自分の知識や経験を活かしたい」「団体・チームの心の支えになりたい」(共に 66.4%)が最も多く、次いで「スポーツの楽しさを教えたい」(65.9%)であった。

**図表 2-24 ボランティアでスポーツ指導を行う理由  
(全体、資格別;複数回答)**

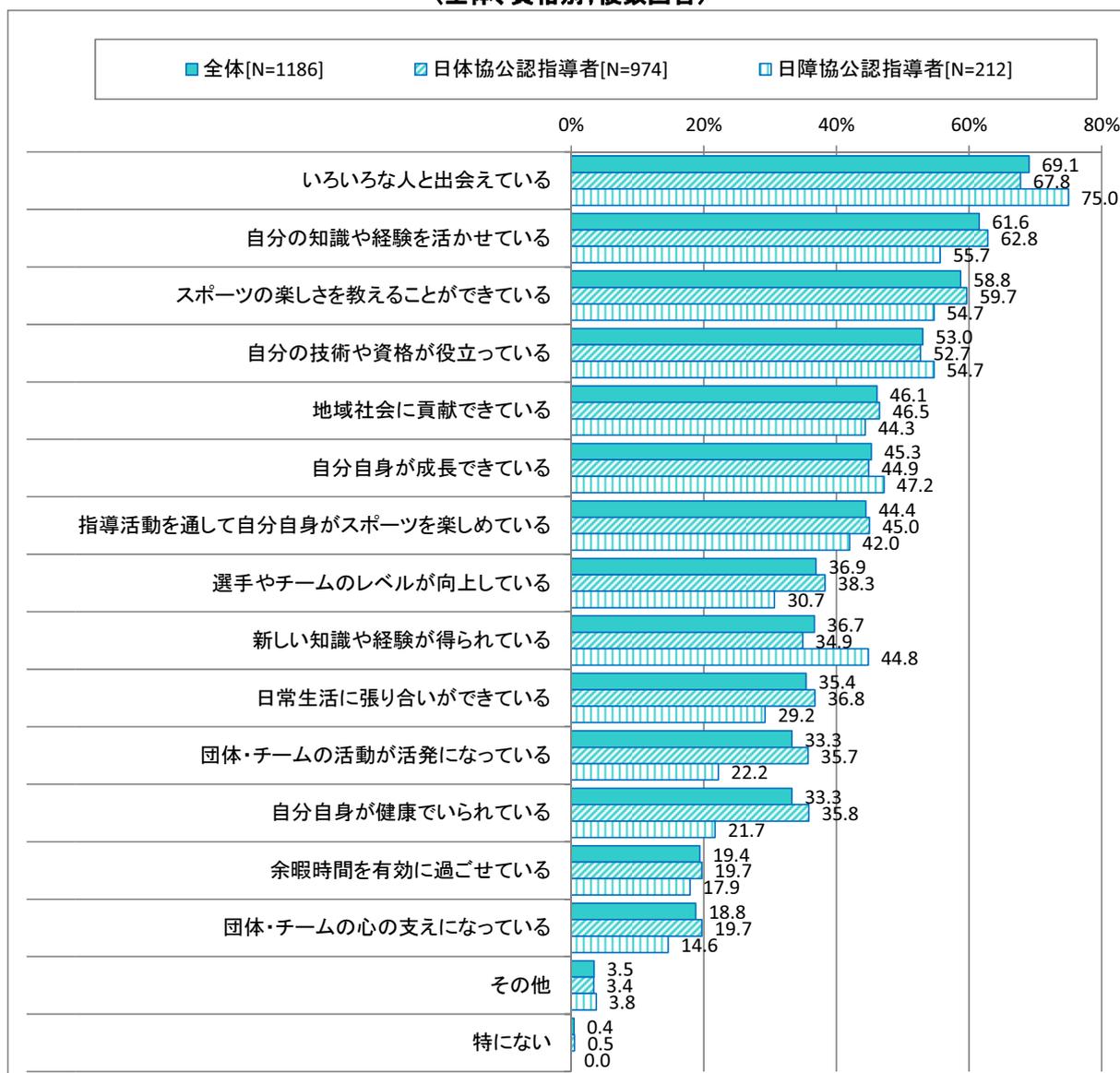


### (10) ボランティアでスポーツ指導を行って良かったと思うこと

ボランティアでスポーツ指導を行って良かったと思うことについては、「いろいろな人と出会えている」(69.1%)が最も多く、次いで「自分の知識や経験を活かしている」(61.6%)、「スポーツの楽しさを教えることができる」(58.8%)であった(図表 2-25)。

資格別に見ると、日体協、日障協共に「いろいろな人と出会えている」(それぞれ 67.8%、75.0%)が最も多く、次いで「自分の知識や経験を活かしている」(それぞれ 62.8%、55.7%)であった。

**図表 2-25 ボランティアでスポーツ指導を行って良かったと思うこと  
(全体、資格別;複数回答)**

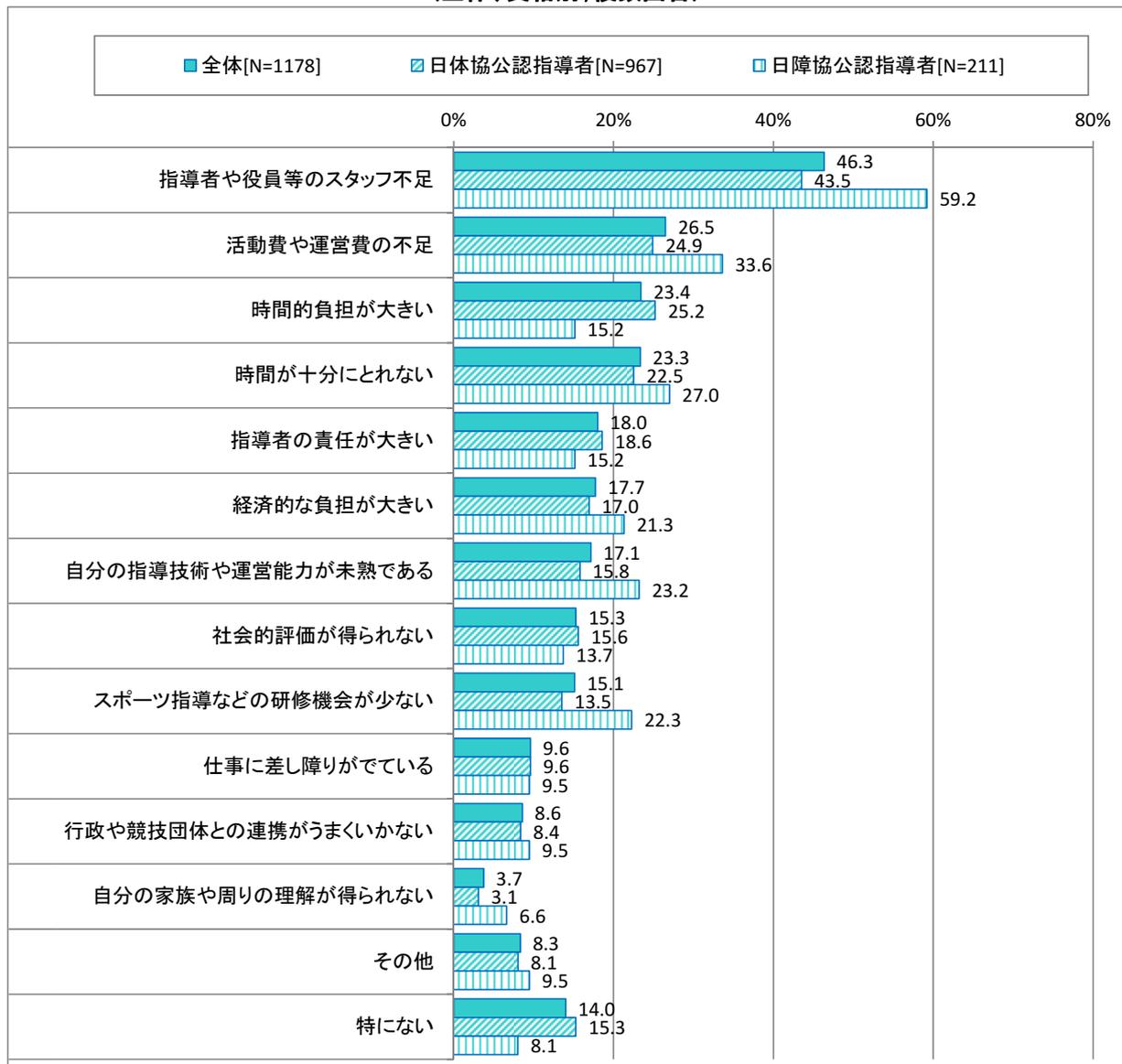


### (11) ボランティアでスポーツ指導を行う上で問題になっていること

ボランティアでスポーツ指導を行う上で問題になっていることについては、「指導者や役員等のスタッフ不足」(46.3%)が最も多く、次いで「活動費や運営費の不足」(26.5%)、「時間的負担が大きい」(23.4%)であった(図表 2-26)。

資格別に見ると、日体協では「指導者や役員等のスタッフ不足」(43.5%)が最も多く、次いで「時間的負担が大きい」(25.2%)、日障協では「指導者や役員等のスタッフ不足」(59.2%)が最も多く、次いで「活動費や運営費の不足」(33.6%)であった。

**図表 2-26 ボランティアでスポーツ指導を行う上で問題になっていること**  
(全体、資格別;複数回答)



(12) ボランティアでのスポーツ指導を今後も続けたいと思うか

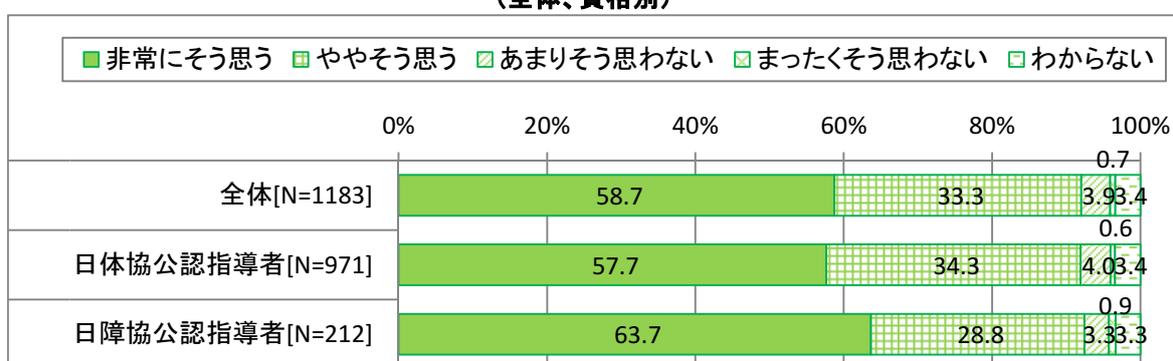
ボランティアでのスポーツ指導を今後も続けたいと思うかについては、「非常にそう思う」(58.7%)が最も多く、次いで「ややそう思う」(33.3%)であった(図表 2-27)。

資格別に見ると、日体協、日障協共に「非常にそう思う」(それぞれ 57.7%、63.7%)が最も多く、次いで「ややそう思う」(それぞれ 34.3%、28.8%)であった。

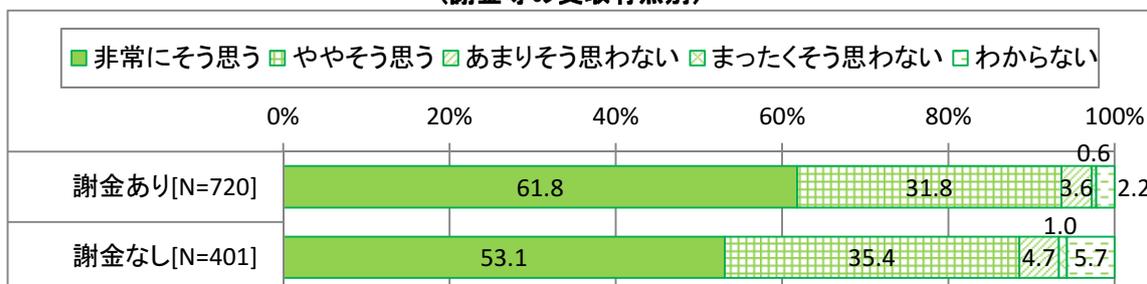
謝金等受取の有無別に見ると、「非常にそう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合では、「受け取ったことがある(謝金あり)」が 93.6%、「受け取ったことがない(謝金なし)」が 88.5%であった(図表 2-28)。

スポーツ指導上の問題点別に見ると、「非常にそう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合の比較では、「スポーツ指導などの研修機会が少ない」(95.5%)が最も多く、次いで「時間が十分にとれない」が 93.4%であった(図表 2-29)。

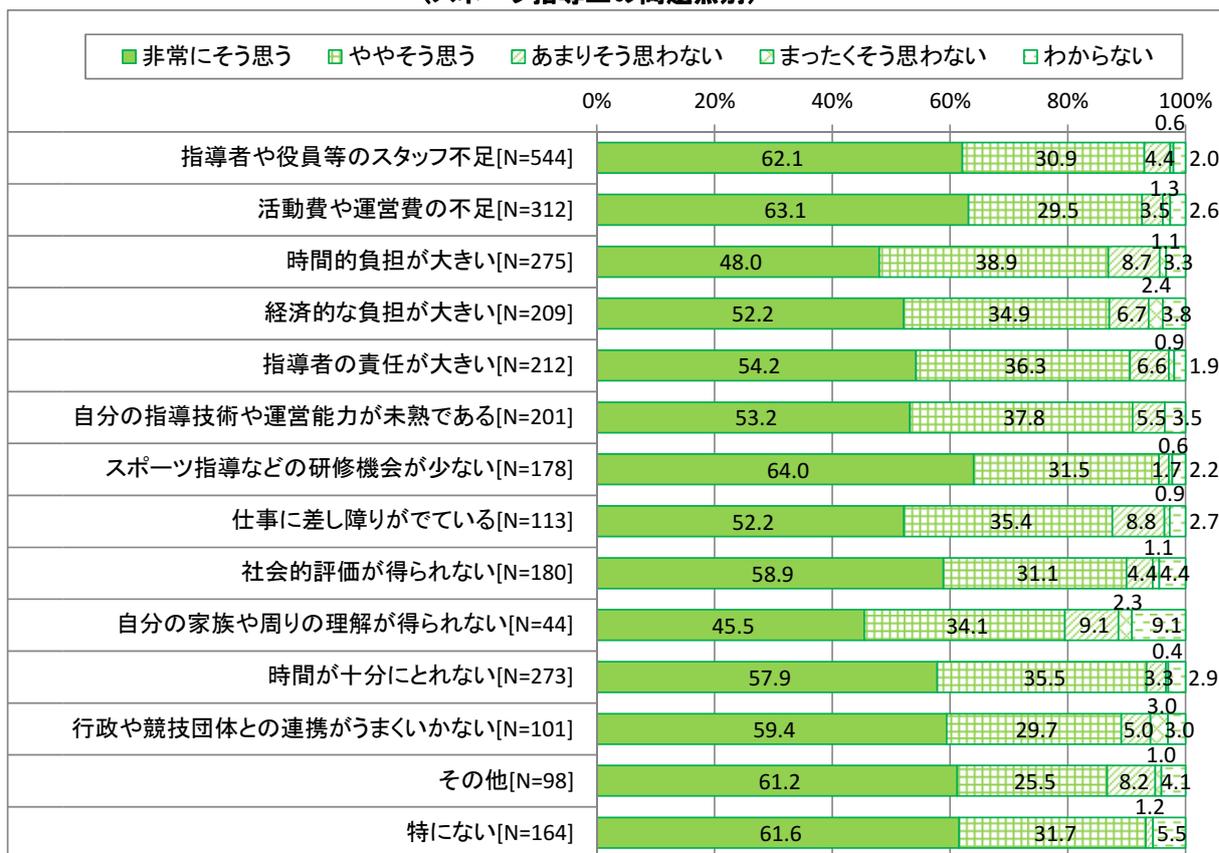
図表 2-27 ボランティアでのスポーツ指導を今後も続けたいと思うか  
(全体、資格別)



図表 2-28 ボランティアでのスポーツ指導を今後も続けたいと思うか  
(謝金等の受取有無別)



図表 2-29 ボランティアでのスポーツ指導を今後も続けたいと思うか  
(スポーツ指導上の問題点別)



### (13) 今後ボランティアでスポーツ指導を行いたいと思うか

過去1年間にスポーツ指導を行っていない、又はボランティアでのスポーツ指導を行っていない者に対し、今後、ボランティアでスポーツ指導を行いたいかについて尋ねたところ、「ややそう思う」(36.0%)が最も多く、次いで「あまりそう思わない」(24.7%)であった(図表 2-30)。

資格別に見ると、日体協、日障協共に「ややそう思う」(それぞれ 35.9%、37.1%)が最も多く、次いで「あまりそう思わない」(それぞれ 25.0%、22.6%)であった。

図表 2-30 今後ボランティアでスポーツ指導を行いたいと思うか(全体、資格別)

